



大阪労連組織交流集會
は、8月1日(土)午前10時から終日で取り組まれ
ました。午前の部は、嘉

実践に活かせる組織学習交流会

建交労大阪府本部
機関紙



発行元 府本部
電話 06-4800-7115

大阪労連・福岡議長

満事務局長の司会進行で始まり、冒頭に主催者を代表して大阪労連・福岡議長があいさつ。福岡議長は、「労働組合が弱くなれば、労働条件だけでなく、民主主義事態が脅かされる。対話と学びあいで強く大きな組織にしていこう!」とよびかけま

した。そして、全労連竹下武事務局長の学習会が始まり、「対話と学びあい、仲間を増やす実践から学んだこと。」をテーマに約1時間学習しました。

午後の部は、建交労大阪府本部の参加がありませんでしたが、学習会と7つのグループに分かれて分散会が行われています。午後の部の全体参加者は26名でした。



国労大阪会館大会議室

活かせる対話術など実りある学習が出来ました。感想として、「自分たちの組織が実践してきた内容とは違う角度で取り組まれていること。もう一度頑張って組織を大きく増やし、強固な組織づくりをやるう」と決意しました。学習会後は、10のグループに分かれて分散会を行いました。テーマは、「①学習会の感想②職場要求実現運動を通じた組織強化・拡大の経験③職場での対話など、特に新入組合員への働きかけの経験④職場での世話役活動や共済活動での経験」に40分間討論しました。午

核廃絶を訴え続ける

2026年原水爆禁止世界大会開催

核兵器廃絶を訴え続ける原水爆禁止世界大会は、8月4日(火)～6日(木)にかけて開催されました。4日の初日には広島県立総合体育館において開かれ、会場参加が3,400名、706人がリモート参加し、午後1時30分から午後4時30分まで開催しました。

核兵器廃絶を訴え続ける

建交労大阪からは、関



西支部2名、関西合同支部3名、荻田書記長が参加しました。冒頭の主催者あいさつ野口邦和世界大会実行委員会運営委員会共同代表は、「核不拡散条約再検討会議は成果文書を発出出来なかったが、核兵器廃絶へ世界の主流を浮き彫りにしたと強調。地球規模で連帯と共同を進展させ、核兵器廃絶の流れを促進させよう！」と呼びかけました。その後の被爆者報告で、日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の児玉三智子(広島)さんは、「原爆地獄の再現をどんな理由があろうとも許すことは出来ない。」と強調。日本被団協代表理事



の横山照子さん(長崎)は、「核兵器は1発残らず地球上からなくしましょう！」と訴えました。5日は、13の分科会に分かれての参加でした。第1分科会「核兵器のない世界、核兵器禁止条約に参加する日本を」第2分科会「比較平和の世界へ、労働運動の課題と果たす役割」第3分科会「非核平和の日本とアジア」第4分科会「ストップ9条改憲、戦争準備・大軍拡、



守ろう平和とくらし」第5分科会「被爆者のたたかいとその継承のために」第6分科会「ジェンダー平等と核兵器廃絶運動」第7分会「青年のひろば」第8分会「反核平和の文化」第9分科会「気候危機、エネルギーと原発」第10分科会「ひろしまの声を聞こう」ゆらぐ核のタブー、今こそひろしまを！第11分科会「親と子の学びあいひろば」被爆電車に乗って」第12分科会「似島 少年少女のつどい」第13分科会「原爆遺跡、旧陸軍被服支廠(き

ゆうりくぐんひふくししよう)巡り」。午後7時45分から午後8時30分までは、反核平和ペンライト行動に参加しました。6日の最終日は、ヒロシマデー集会が国際会議場で午前10時30分から午後1時まで行われました。最終日に沖縄県玉城デニー知事からビデオメッセージがあり、「軍事的緊張が高まりを見せている国際情勢と核拡散への懸念が高まる状況であるからこそ、私たちはいつそう、平和と核廃絶を訴えてゆかねばならない」と強調しました。その他、韓国、米国、スペイン、フランスの代表者が発言がありました。3日間を通して2026年原水爆禁止世界大会参加しての感想は、『改めて核兵器の怖さがわかり、核廃絶に向けて運動を継続して取り組まなければならない。』と感じました。